

古典探究 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	3年〇組 教室
クラス	3年〇組 (〇〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	古典探究	単元名	物語 (四)
使用教材	『源氏物語』 「夕顔の死」 (紫式部)	使用教科書	『精選 古典探究』 第一学習社
教材観	源氏物語の中でも怪異譚として名文であり、恋愛と死、幻想と現実が交錯する象徴的な場面である。平安貴族社会における恋愛観や死生観を学習することができる。「もののけ」の描き方から平安当時の恐怖の感覚を理解することができる。また、主人公光源氏の内面描写から語り手の視点や心理描写の巧みさを学ぶことができる。さまざまな観点から読み解くことが求められる文章であり、読解力を高める教材としてふさわしい。		
生徒観	文系のクラスであり古典の学習に意欲的な生徒が多いが、基礎知識の定着が弱い生徒もいる。模試の結果では漢文の方が得点率が高く、古文を逐語訳する段階で課題を抱えている状況も見取れる。クラス内の人間関係は良好であり、授業内での交流を積極的に行うことができる。		
指導観	前年度で「光源氏の誕生」と「若紫」を学習しており、引き続き『源氏物語』を読むことで、その作品世界に対する理解を深めることを図る。また、授業内で学んだ知識・技能を活用して原文と現代の作家による口語訳を読み比べる言語活動の中で、交流をしながら学びを深めたい。古典特有の表現に注意して、内容を的確に捉える読解力の向上を図るとともに、今後も生徒が古典作品に触れ親しみ続ける内発的動機となるように、表現を味わう力の向上を図る。		

1 単元の目標

- (1) 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1)ア
- (2) 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] A(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

2 単元の言語活動

本単元の教材で学んだ内容を基に、原文と比較して口語訳の特徴がわかるように表現の意図や効果について説明し、現代語訳(新訳)を書き直すために構成メモを作る。

(関連:[思考力, 判断力, 表現力等]A(1)ウ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1)ア)	① 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(A(1)ウ)	① 現代語訳を書き直すことを通して、自分の意図が相手に的確に伝わるよう、表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全7時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (1時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。夕顔の死の状況や怪異の描写を読み取るということを確認する。 ○梗概を読んで、桐壺の巻から本教材までの展開を理解する。 ○本文直前の六条御息所に関する記述を確認する。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
第2次 (3時間)	○本文を読解する。 ○口語訳、段落ごとの内容を整理する。 ○源氏の行動と心情を時間の経過によって整理する。 ○物の怪の描写と夕顔の容態の関係を整理する。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
第3次 (3時間)	○本文のまとめを行い、作者の表現意図を確認する。 ○江國香織の口語訳と原文を読み比べ、表現の違いについて確認する。 ○担当の作品と原文を読み比べ、変更点とその効果についてグループで交流する。 ○他グループの発表を聞き、構成メモ、新訳を書く。 ○『源氏物語』に対する理解を深めたかを省察する。 (本時2/3)	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「行動の観察」 「記述の分析」 「記述の点検」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○桐壺～夕顔の梗概を理解する。	・本文を学んだ後に、新訳を書くこと、活動を通して作者の表現意図をより理解することを意識づける。 ・昨年度の学習（桐壺・若紫）の確認を行う。 ・夕顔までの主要登場人物、夕顔との出会い、「なにがしの院」について、教科書本文直前の記述について理解させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」授業プリント ・記載内容を確認する。

2	○第1段落を読解する。	・第1段落の読み取りを行い、冒頭文「いとをかしげなる女」の正体について考えさせる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」授業プリント ・記載内容を確認する。
3	○第2段落を読解する。	・第2段落の読み取りを行い、魔除けとしての当時の風習、光源氏の行動と心理状況を理解させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」授業プリント ・記載内容を確認する。
4	○第3段落を読解する。	・第3段落の読み取りを行い、物の怪に対する認識、緊迫した場面でのせりふ、滝口の行動の意味を理解させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」授業プリント ・記載内容を確認する。
5	○本文のまとめを行い、筆者の表現の意図を理解する。 ○江國香織の訳と読み比べ、原文との変更点を整理しその意図を考える。 ○他4編も読み比べ、ワークシートに整理する。	・怪異譚としての不気味さの描写の仕方、物の怪の描写の仕方に注目させる。 ・グループワークで考えを深めていけるように適宜助言する。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ① 「行動の観察」ワークシート ・意見交流での姿勢を観察する。
6	○読み比べた作品についてグループ発表をする。 ○原文の特徴について再度確認する。 ○意図をもつた口語訳「新訳」を書くための構成メモを作成する。	・各作家の表現方法の工夫とその意図について理解させる。 ・語りの視点、夕顔巻の成立について理解させる。 ・工夫が効果的かどうかペアで確認を行う。 ・支援が必要な生徒には各作家表現を例にして書くように助言する。	[思考・判断・表現] ① 「行動の観察」 ・発表の様子を観察する。 「記述の分析」ワークシート ・発表を聞いて学んだ視点から書いているか、記載内容を分析する。
7	○新訳の清書を行い、ペアで評価する。 ○振り返りシートを記入し、自身の学びを省察する。	・読者に伝わるよう、構成メモで考えた表現上の工夫ができていないか確認させる。 ・評価の項目を記入する際に、授業の振り返りをしながら、客観的に自己評価することを促す。	[思考・判断・表現] ① 「記述の点検」プリント ・構成メモを生かした内容になっているか、新訳を点検する。 [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」振り返りシート ・振り返りシートの内容から、自身の学習を調整しながら相手に伝わるように、説明の仕方や表現の仕方を工夫できたか分析する。

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている」状況を、「原文の逐語訳を理解するに留まらず、古文特有の表現に注意して内容を的確に捉え、その上で新訳の構成を組み立てようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、主に授業プリントの記述を確認し評価する。

授業プリントに記述できていない状況を C と捉え、個別に声をかけて、プリントの確認をするなどし、読み取りを行うよう促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の「『読むこと』において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている」状況を、「構成メモ作成において、読者を想定してねらった意図に応じた訳を意識し、語りの視点や人物・情景の描写などから工夫する点を整理している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析し評価する。

ワークシートを自分の言葉で書くことができない状況を C と捉え、先のグループ発表にあった各作家の工夫点を参考にして書くよう促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「現代語訳を書き直すことを通して、自分の意図が相手に的確に伝わるよう、表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「読解及び読み比べを通して理解した知識や技能を活用して記述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析し評価する。

本単元の展開や人物関係を基にした構成メモがまとめられず、努力を要すると判断する状況を C と捉え、授業プリントの内容や本文の内容を踏まえて考えるよう促す。

6 学習指導案(6時間目/全7時間)

本時の目標：ア 現代の作家の現代語訳と原文を比較し分析をした発表を聞き、各作家の口語訳の違いを理解した上で、現代語訳を書き直すために文章の構成や展開、表現の特色について考えることができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] A(1)ウ

言語活動：本単元の教材で学んだ内容を基に、原文と比較した口語訳の特徴がわかるように、また表現の意図や効果について説明し、現代語訳（新訳）を書き直すために構成メモを作る。

〈資料〉『源氏物語 九つの変奏』江國 香織、『窯変 源氏物語』橋本 治、『謹訳 源氏物語』林 望『六条御息所 源氏がたり』林 真理子、『紫式部 源氏物語』A・ウェイリー版 毬矢まりえ+森山恵姉妹訳

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	<input type="checkbox"/> 本時の目標を確認する。 <input type="checkbox"/> 前時までの学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の読み比べての分析を聞き、表現を工夫した自分の新訳を書くための構成メモを書くことを確認する。 ・教科書とワークシートを見直し、担当の口語訳の特徴を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で確認させる。
展開① 25分	<input type="checkbox"/> 表現分析について発表する/聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・各口語訳における語りの視点や人物像、表現の特徴について理解する。 ・メモを取りながら聞き、各作家の特徴について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明不足の部分について、質疑応答しながら補う。 ・本文の語りの特徴について、確認させる。
展開② 25分	<input checked="" type="checkbox"/> 新訳のための構成メモを書く。 <input type="checkbox"/> ペアで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新訳を書く際に重要視することをマトリックス図に図示する。 ・意図に対応する工夫点を明記する。 ・他者のメモを読み、表現の工夫の仕方が分かりにくい場合など互いに改善点などを提案する。 	<p>【本時の目標アに対する評価規準と評価方法】</p> <p>規準：工夫した新訳作りを意識し、発表された内容を活用してメモを書くことができている。</p> <p>方法：「記述の分析」（ワークシート、机間指導）</p> <p>[状況Cに対する手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容の観点を参考にして書くよう助言する。 ・ペアでメモを交換して互いに読み合わせる。
まとめ 5分	<input type="checkbox"/> 本時の内容をまとめる。 <input type="checkbox"/> 次回の内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を再確認し、自分の書いたメモを見直す。 ・次回は新訳の作成と、グループ交流を行うことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを書き終えていない生徒に対して、次回までに完成させるという見通しをもって取り組むよう注意を促す。